

平成 25 年 11 月

猪鍋を食ふ山小屋の武者震ひ
吾亦紅塀があるから覗くなり
秋思かな愁てふ字を分解の
曖昧も生きる知恵なりけむり茸
自然薯に拘つてみるとろろ汁
神の留守悪知恵使ふは今でしょう
手酌して自分に勤労感謝の日
なにもせぬことの豊かさ小春の日
少年の早口言葉冬めける
枯芒昭和のごとく褪せてゐる